

# ふたたび三和区の産廃現地調査

27日午後、「住民の自治と合併問題を考える会」(佐藤忠治代表)による三和区の産廃の現地調査があり、参加してきました。私が現地調査に参加したのは昨年秋に続いて今回が2回目です。今回は県市議5人を含め、20数人が参加し、これまで最大の規模になりました。

今回の調査では、昨年の調査と違って、草が大きくなっていないため、地形をしっかりと確認できました。三和区の前山忠さんから、どこにどういった中間処理施設があったか、どこに何が埋められたのかなどを説明していただきました。「安定化させている」という産廃の山から出る水は確認できませんでしたが、雨が降った時などは毒々しい色の水が流れ出るそうです。出る場所には緑やシルバーのかたまりがくっついていました。気持ち悪かったですね。こんな



水が出て、水質検査は他の水と混じる下流で行われます。「環境基準では水で薄めて問題にならないような地点で調査するようになっていく」という誰かの言葉が印象に残りました。産廃の木くずなどの山の一部を掘り起こしてみると、アルミサッシ、鉄くずなどが出てきました。何が残っているのかわかりませんが、検査場所、方法は住民の命と安全を守る立場で再検討してほしいものです。

動が2300ガルという大きな数値になっていいますが、これは立地周辺が大きな地震に襲われる場である「解放基盤が深く、軟弱な地層が厚くて、まさに“豆腐の上の原発”になっている」「新たな規制基準は深層防護の国際基準に及ばないもので、住民のいのちと暮らしを守る視点が欠如している」ことなどを明らかにしました。興味深く聴いたことのひとつは、先日、柏崎刈羽原発活断層問題研究会が東電に要請した内容の中で、「東電の地滑り説」についてふれたことです。東電が地すべりだと主張するA断層は「高い方へと滑っている」との矛盾を突いたのです。今後、東電側がどう言い訳しようとするのか注目です。

# 柏崎刈羽原発への地下水流入量は 1日当たり約3400トンも

28日、十日町・津南地域自治研究所主催の柏崎刈羽原発の視察の旅に参加しました。と言っても、視察はすでに終わっていて、午後の講演会のみの参加です。

午前視察では、柏崎刈羽原発構内の見学ということで、防潮堤などを見たようですが、新たな問題が浮上してきました。柏崎刈羽原発での地下水のくみ上げ量とその耐震性についてです。

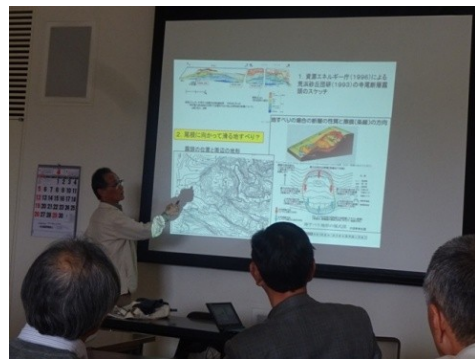
新大名誉教授の立石雅昭先生によると、東電側の説明では、「柏崎刈羽原発では地下水問題は当初から重要な問題と認識し、対策をとってきた」とのことです。しかし、「福島では流入する地下水をくみ上げるサブドレーンと呼ばれる井戸が地震で損壊、あるいは埋まってしまつて機能喪失したという経過があります。東電が立石先生にメールで回答した内容によれば、「(柏崎刈羽原発の)サブドレーンの汲み上げ量は1〜7号機の合計で、約3400トン(1日当たり)」で、各位置や季節によつて量は変化するそうですが、それにしてもすごい水量です。地下水の汚染がされた時には処理できるかどうか、大きな不安材料となります。

さて、講演の講師は立石先生でした。「“豆腐の上の原発”柏崎刈羽原発は廃炉に」がテーマ。福島原発事故が発生してから4年1ヶ月が経過する中で、もう一度、福島原発の現状を正視し、柏崎刈羽原発の危うさを知って、何をなすべきかを考えるのが趣旨です。

「柏崎刈羽原発は、算定された基準値地震動が2300ガルという大きな数値になっていいますが、これは立地周辺が大きな地震に襲われる場である」「解放基盤が深く、軟弱な地層が厚くて、まさに“豆腐の上の原発”になっている」「新たな規制基準は深層防護の国際基準に及ばないもので、住民のいのちと暮らしを守る視点が欠如している」ことなどを明らかにしました。



【キツネノボタン】キンポウゲ科の多年草。漢字で、「狐の牡丹」と書きます。黄色の花の後にコンパイトウのような角のある果実をつけます。有毒植物ですので要注意です。写真は吉川区山方にて撮影しました。



# はしづめ法一の活動レポート

**No.1706 2015.5.3.10**  
 発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第三五四回

## 旅支度

二〇日後に永遠の旅に出ることがわかったとしたら、あなたは何をしますか。会っておきたい人に会う。残された家族が困らないように、自分にしかできないことをやりきる。それでもまだ時間がまだあったら……。いろんなことが頭に浮かぶことでしょうか。先日亡くなった伯父のことを救急車で運び込まれた病院やお通夜の席などで聞いたとき、ひよつとしたら、伯父は自分の命がそう長くはないことを分かっていたのではないかと思いました。

市街地に住む長男から迎えに来てもらい、高田公園の桜を夫婦で鑑賞したのは亡くなる一〇日ほど前でした。桜はかなり散っていましたが、それでも数千本の桜の木々が花を咲かせている、その迫力はあつたはず。この前日は長男夫婦の家に泊まり、孫の顔も見ることができました。長男夫婦にできた三人目の孫のNちゃんの上の孫たちとはかなり年が離れています。それだけに、かわいかったようです。とても元気な子で、大きな目は未来をまっすぐ見ている感じがします。この子の様子は伯父の口から時どき聞いていました。

伯父は私のところにも寄ってくれました。もつとも、こちらは花見へ行くよりも一週間ほど前のことです。伯父夫婦は期日前投票をするために総合事務所までやってきて、そのついでに立ち寄ってくれたのです。私は留守だったので、ちょうど、妻がいて、伯父と伯母にコーヒーを飲んでもらったことでした。伯父に連れ添う伯母はわが家の出身です。家が隣にあった時期が長期にわたっていたことから、「最も近いところにある親戚」として何かと世話になっていました。私が町議選に初めて出たときに責任者をやってくれたのもこの伯父でした。

救急車で病院へ運ばれた日、私は吉川区竹直に向かつて車を走らせていました。携帯電話で伯父のことを知らせてくれたTさんは、「いつもの低血糖ではなく脳梗塞で倒れた。医者からは長く持つても三日だと言われた」と教えてくれました。おそらく連絡を受けたほとんどの人は同じ話を聞き、病院へ駆けつけたのだと思います。

伯父の状況を聞いていた人たちは、病室や談話室で、「こうなることがわかっていただろかいね」と口々に言ったのは、長男夫婦の家等を「最後の別れ」としてまわったこと、体調がいまひとつであったにもかかわらず尾神の春祭りに出たこと、それに家の周りの片付け、畑の仕事をいつもよりも早々と丁寧に行っていたことでした。

今春、伯父の家を訪ねた人たちが驚いていたのは、伯父が自分の家の屋敷内だけでなく、裏山の杉林の中まで掃除をし、きれいにしていたことです。病室などで、「杉林の中の杉っぱまできれいに片付けたがねかね。まあ、よく動きなる人だったこと」という言葉を何回も聞きました。伯父が「よく動く人であり、働く人である」ことは、私も大田の田んぼの草刈り作業や土方仕事での仕事ぶりを見てきたのでよく知っています。時間をキチンと守り、与えられた仕事をテキパキと、しかもきれいにやるのです。でも、なんで杉っぱまでと思いました。

伯父と最後に会って話したのは県議選投票日の三日後でした。その日は選挙のことばかりしか話をせず、裏山の杉っぱの片付けのことも知りませんでした。でもお通夜の席で伯母と話をしたとき、ふと思いついたのです。十数年前、杉林の中もまわりもカタクリの花が埋め尽くしていたことを。花が好きな伯父ですから、杉林を含む裏山全体を再びカタクリの花でいっぱいにしたかったのではないか、私はそんな気がしたのです。

## 魚住かまぼこファンクラブ交流会に参加

お誘いをもって直江津の魚住かまぼこ店のファンクラブ交流会に参加してきました。参加者は150人を超える盛況ぶりで、びっくりしまし

た。サクソフォーンとマリimbaによる演奏会、交流会と楽しいひと時を過ごさせてもらいました。

演奏された江川良子さん、上原なな江さんはNHKの「あまちゃん」の大ヒットした曲の演奏にもかかわったとか。素敵な演奏でした。交流会では市議時代に知り合いになっ



た市内の会社関係の人や団体の何人もの人たちから、「惜しかったですね。がんばってください」と励ましていただきました。それだけでなく、フェイスブックで付き合いのある人、お連れ合いが大島出身の人など初対面の人からも声をかけていただきました。

## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月22日(水)	4月29日(水)
上越南消防署	0.036	0.046
上越北消防署	0.053	0.057
新井消防署	0.040	0.047
頸北消防署	0.056	0.043
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.053	0.040
高士分遣所	0.047	0.040
名立分遣所	0.053	0.057

## おかげ様で柏崎市議選はふたりとも当選しました

23日は柏崎市議選の応援でした。五位野和夫候補に続いて今回は日本共産党の持田繁義候補のところへ行きました。持田さんは原発問題ではなくてはならない論客です。どうしても上がってほしい人でした。私は電話での支持のお願いです。糸魚川市委員会のNさんとともに電話かけをしました。

投票の結果、日本共産党の2候補は当選しました。この結果を足掛かりに原発再稼働反対運動を盛り上げていきます。

